

第1回ESIBLA教育フォーラム —英語4技能の授業実践—

実施概要

英語4技能は紆余曲折を経ながら、着実に現場へ導入されようとしています。しかし、新たな項目である”Speaking”と”Writing”、つまり「英語表現」をどのように既存の授業に取り入れていくのでしょうか？

今回はすでに現場で実践している多様な登壇者を迎え、すぐに実践できる「英語表現」の授業実践について取り扱います。一方的に登壇者が話す形ではなく、実際のワークショップや対話セッションなどを多分に盛り込んで、インタラクティブな学びの場を創出することによって参加者同士も情報交換のできる形で開催します。

- ・ 一般開場

13:00

- ・ 全体セッション

@国際交流会議場

13:15-14:00

- ・ セッション①

@会議室1-5+メディアホール

14:10-14:55

- ・ セッション②

@会議室1-5+メディアホール

15:05-15:50

- ・ セッション③

@会議室1-5+メディアホール

16:00-16:45

- ・ 懇親会

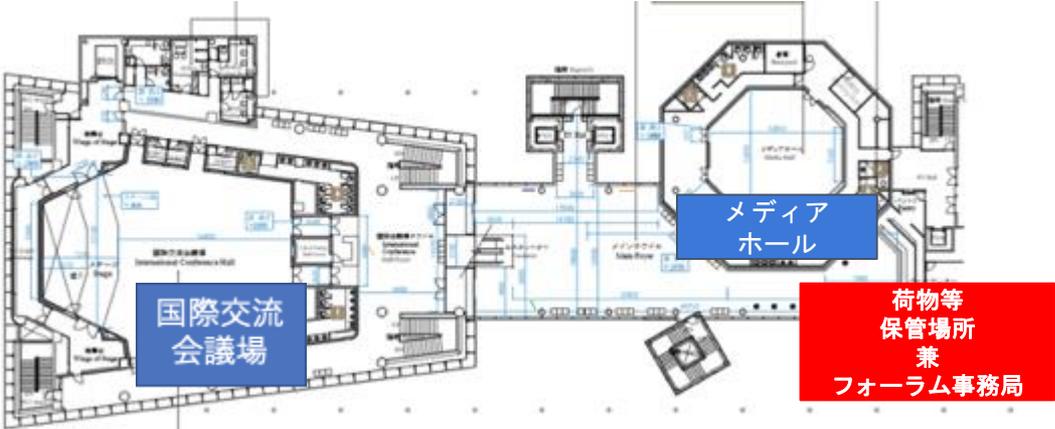
17:15-

タイムテーブル

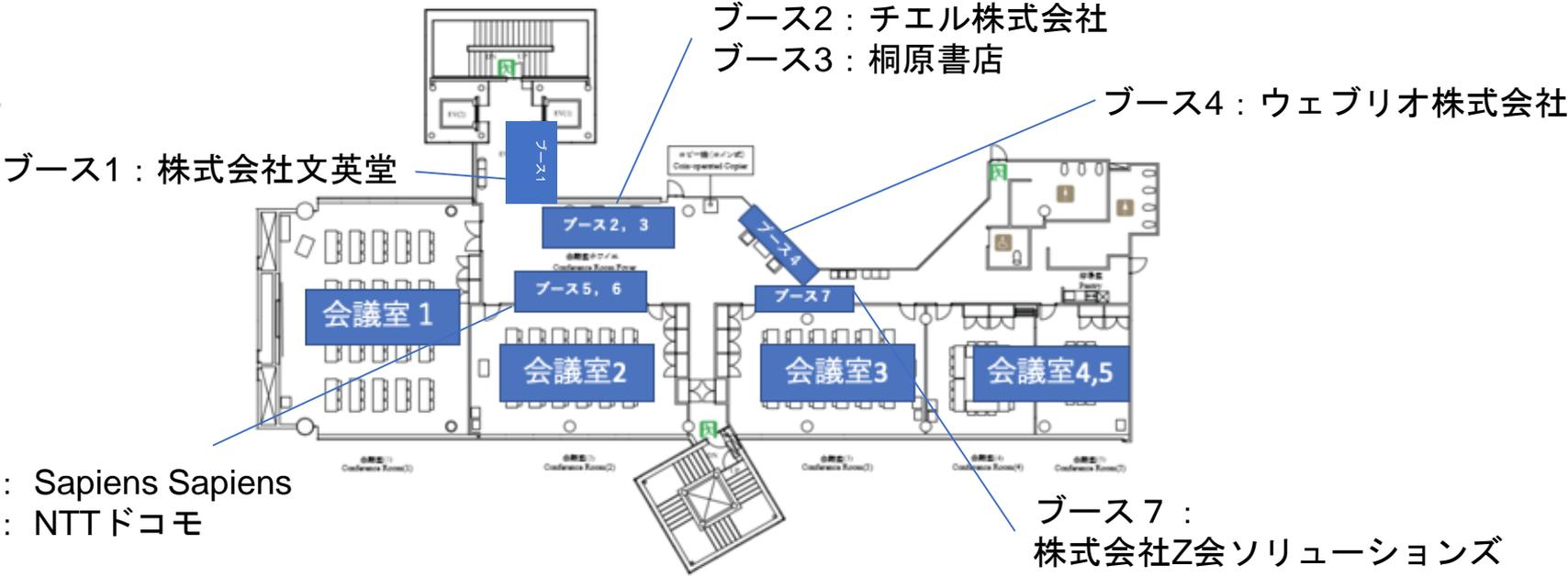
	国際交流会議場	メディアホール	会議室 1	会議室 2	会議室 3	会議室 4+5
収容人員	279	102	60	36	36	30
13 : 15-14 : 00	"英語表現"を学校教育でどのように教えるか 吉田研作氏 (上智大学特別招聘教授)					
14 : 10-14 : 55		アクティブラーニングを活用した英語4技能に繋がるライティング学習 松香 洋子氏 (mpi松香フォニックス創業者)	ICTを活用したインタラクティブな英語4技能授業実践 唐澤 博氏 (浦和実業学園中学校・高等学校) 井上 綾子氏 (株)NTTドコモ	TOEFL120点満点、TOEIC990点満点、TOEIC SW 400点満点、日本ランキング1位の講師が教える、英語 Speaking, Writing 力を2ヶ月で飛躍的に伸ばす英語指導法：中・高校生を英語ペラペラにする方法 株式会社 Sapiens Sapiens	国際課題研究発表イベント Global Link 参加で得たもの 植木 和司郎氏 (株式会社JTB GLS実行委員会) 布村奈緒子氏 (都立両国高等学校)	・英語4技能強化のベースとなる、インプットを鍛える重要性 ・学校のICT化サポートワンストップサービス 藤原 順氏 (株式会社SRJ) 向井映理菜氏 (株式会社V-Growth)
15 : 05-15 : 50		4技能(聞く、話す、読む、書く)を伸ばす英語の学び方・教え方 安河内哲也氏	第1回Change maker Awards入賞者が語るChange Maker Awards 第1回CMA入賞者	4技能を伸ばすための英文法力に迫り、味わう 中邑 光男氏 (関西大学商学部教授)	話したくなるスピーキング、書きたくなるライティング、にするために 松坂 伸彦氏 (芝中学校・高等学校)	Speaking力・Writing力を客観的に測定し指導へつなげるために 馬場 政義氏 (株式会社桐原書店) 松村 弘典氏(予定) (株式会社 EnglishCentral)
16 : 00-16 : 45		英語表現の授業実践一次期学習指導要領を踏まえて 田中茂範氏 (ココネ言語教育研究所、慶應義塾大学名誉教授) 阿部一氏 (ココネ言語教育研究所、前獨協大学教授)	「帰国子女ではない僕が世界中で活躍するようになった理由」 菅谷亮介氏 (NPO法人very50)	教科横断(英語×保健)授業実践発表～思考力を鍛えずして英語4技能を育てることは出来ない～ 熊谷 優一氏 (大阪市立水都国際中学校・高等学校) 藤原 亮治氏 (筑波大学附属坂戸高等学校)	English 4skillsを活用した英語4技能授業の試み 田中 大樹氏 (クラーク記念国際高等学校) Peter O'Connor氏 (クラーク記念国際高等学校) 井上綾子氏(株)NTTドコモ	英語の先生必見！4技能「指導で使える」アプリとは？ 赤堀 弘和氏 (プロダクト営業部) 高杉 聡美氏 (プロダクト営業部) 富樫 勇介氏 (プロダクト営業部)

会場について

3F



4F



プログラム紹介

▼登壇者

上智大学特別招聘教授

吉田 研作氏

▼特徴

英語教育の、過去・現在を理解し、英語教育の未来を展望
できます！

▼場所・時間

国際交流会議場 13：15 - 14：00

▼メッセージ・リンク

より良い英語教育を探究する方々にとって、今回の基調講演と翌日のChange Maker Awardsは座学と実際の指導例を見る貴重な機会となります。ぜひご来場ください。

<https://esibla.or.jp/esibla-forum/>

▼企画概要

次期学習指導要領の改訂では、下記3つの目標を明確に設定しています。

- ①英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。
- ②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

まとめると、「読む」「聞く」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の4技能5領域を総合的に充実させることが、目標に掲げられていると読み解けます。

これまでの「読み」「書き」中心の英語学習から「聞く」「話す」中心の学習に移行が鮮明になる中で、複数技能を統合した学習となっている英語をどのように学校教育で教えたらよいのでしょうか？

ポイントになるのは、話者が伝える内容であり、言語の表層的なスキルを重視することではありません。内容を重視するということは教科横断型の学習や探究学習の要素も必要となります。

このような変化に対して、弊協会アドバイザーであり、英語教育の権威である吉田研作先生をお招きし、CLILなど内容言語の授業例などを基にして、次期学習指導要領に対応する英語教育を学校でどのように展開するかについて解説していただきます。

英語の教育の過去・現在を紐解きながら未来へ展望を向ける基調講演です。

▼登壇者

mpi松香フォニックス創業者
松香 洋子氏

▼特徴

生徒達に、「英語で表現する力」を確実に身に着けさせるための学習！

▼場所・時間

メディアホール 14:10-14:55

▼メッセージ・リンク

目から鱗のTAGAKIの活用によるアクティブラーニングの具現化と、英語4技能の習得。
学習者が自らの学ぶ力を発揮して、主体的、対話的で深い学びに達する可能性を実感してください。

<https://tagaki.jp/>

▼企画概要

2020年度に小学校課程での新学習指導要領の施行、大学入学共通テストの実施等により教育改革は端緒の重要な節目を迎えます。英語教育改革の内容については枚挙に暇がありませんが、大別するのであれば

- ①語彙・文法・英文和訳・和文英訳の学習内容が、英語4技能（聞く・話す・読む・書く）の習得に移行
- ②知識の習得に加え求められる思考力・判断力・表現力
- ③指導者主体の主体の指導から、学習者主体の学びへ（アクティブラーニング）

このような改革に対応すべく昨秋出版された「TAGAKI」による新たな英語教育ソリューションを紹介いたします。「TAGAKI」は全く新しいWriting教材で、従来の和文英訳等の「書く」とは根本的に異なり、考えて、意見を持ち、表現する力を育てます。TAGAKI10～50までの5シリーズは各冊30トピックがあり、従来の文法ベースではなくトピックベースで「考える」「書く」「伝える」を繰り返し行うことで、思考力・判断力・表現力を鍛えます。また多量の英語に触れ、書き、発話することで英語のインプットとアウトプットを同時に実現し、英語4技能の習得に繋がります。

学習者が受け身ではなく主体的に学びを進めることで、多くの気付きと学びを繋げる、まさにアクティブラーニングの実践です。

従来は指導者が文法的な添削に加え内容の修正もしていました。しかし大切なのは書き手の意見と内容であり、添削に伴い指導者の意見、考えが反映されるべきではありません。添削には限界在りとの観点から、添削をしなくても良い工夫がTAGAKIには施されています。

急速なTAGAKIの普及が進み、多くの中学・高校での採用に至っています。学習者は英語4技能と共にメンタル力を伸ばし、指導者は学習者の学びを待ち、支え、導きます。本企画ではTAGAKIの概要と活用法を紹介すると共に、新たな英語4技能探求学習の可能性を提案いたします。

▼登壇者

浦和実業学園中学校・高等学校

唐澤 博氏

(株) NTTドコモ

井上 綾子氏

▼特徴

ICTを活用したインタラクティブな英語4技能授業実践の御紹介と、English4skills 体験ワークショップ

▼場所・時間

会議室 1 14:10-14:55

▼メッセージ・リンク

学習の個別化・多様化ができる、オンライン英語4技能授業の実践&検討をされている英語科の先生方、ぜひお越しください！

<http://www.urajitsu.ed.jp/sh/>

<https://jals2030.net/>

<https://www.iueo.or.jp/index.html>

<https://e4skills.com/>

▼企画概要

「掴んで・離さず・その気にさせる」「わかりやすい授業」のサポートとして、これまではパワーポイントなどのプレゼンテーションアプリ活用を提案してきましたが、ロイロやMetaMojiのような、インタラクティブな活動ができる支援アプリが登場し、よりアダプティブで活動的な授業ができるようになりました。音声、動画の効果的な活用を提案したいと思います。

▼登壇者

株式会社Sapiens Sapiens

▼特徴

極めて実践的

▼場所・時間

会議室2 14:10-14:55

▼メッセージ・リンク

本気の人だけきてください。情報収集レベルは拒否します。
講演の内容的にはご参加者が少ない方がやりやすいです。
(参加者が25名超の場合は中止または内容変更の可能性あり)

▼企画概要

日本で最大規模のオンライン英語学習プログラムで使用されている、結果重視の英語 Speaking, Writing スキルを劇的に向上させる方法について解説。この方法の実践者は、UCバークレー、コロンビア大学、スタンフォード大学を含む海外の名門大学や、東京大学を含む国内の有名大学への進学実績多数。

国際課題研究発表イベントGlobal Link参加で得たもの

▼登壇者

Global Link実行委員会

植木 和司郎氏

都立両国高等学校

布村 奈緒子氏

▼特徴

学校での課題研究活動と海外での研究発表の経験を通じ得たものを発表します。

▼時間・場所

14 : 10-14 : 55 会議室 3

▼メッセージ・リンク

<https://www.jtbbwt.com/gl/gls/>

▼企画概要

昨今の教育改革、高大接続改革で主体性活動が重視され、探究活動が盛んになっています。

探究活動、課題研究の成果を国内の発表の場のみならず海外でも発表するケースも増えてきました。

英語で、海外の環境のもとプレゼンテーションを行うことは、その準備段階で英語を道具として使う

必然性に迫られるため、通常の学習活動とは違う待ったなしの環境が大きな学習効果を生みます。

また、海外での英語プレゼンテーションの経験が、自己肯定感の低い日本人の生徒にとっても

大きな自信につながります。そのような活動履歴とそこから生徒が得たものについて、Global Link

Queensland参加校の都立両国高等学校の経験をもとにお話しいたします。

- ・ 英語4技能強化のベースとなる、インプットを鍛える重要性
- ・ 学校のICT化サポートワンストップサービス

▼登壇者

株式会社SRJ
藤原 順

株式会社V-Growth
向井 映理菜

▼特徴

社会で活躍できる人づくりをテーマに、英語総合力の強化を担う「速読英語」システムのご提案、および、学校でのICT環境に悩まれている先生方へ、ワンストップサービスでお悩みをクリアーにします！

▼場所・時間

会議室4+5 16:00-16:45

▼メッセージ・リンク

- ①英語長文が読めない・聴けない生徒を多く抱えている学校様
- ②学校内のICT環境：機器・ネットワーク等がバラバラで導入されている学校様 必見！

<https://speedreading.co.jp/products/sokuei/>
<http://v-growth.co.jp/>

▼企画概要

全国47都道府県の学習塾約1,000教室へご活用いただいている「速読英語」アプリケーションを活用し、英語4技能能力および長文読解力向上につなげる下地を醸成してまいります。

大学入学共通テストの英語得点比率が、リーディング：リスニング＝1：1となること、また、年々増加している英語入試・資格試験の文章量に耐えるために多くの文章に触れる訓練（多読・多聴）を通じて、読む体力・聴く体力をつけることが英語アレルギーを解消する大きな要素となることを考えた構成となっております。英語が苦手な生徒にも十分対応できるよう、以下の仕組みをとっております。

- ①：単語のトレーニング（20～25題/回：未知語をできるだけ少なくする）
- ②：長文読解（5題/1長文につき）トレーニング
- ③：②のスピードを向上させるためのトレーニング（スラッシュリーディング）
- ④：同じ文章を活用し、リスニング（ディクテーション）トレーニング

また、学校現場において、英語4技能強化を図る上で、ICT環境整備に悩まれていることも多いかと存じます。一つひとつ現状を踏まえ、さまざまなご要望をお伺いしながら最適な環境のご提案・および運用機器・運用サポートをワンストップサービスでご提供いたします。

▼登壇者

安河内 哲也

▼場所・時間

メディアホール 15 : 05-15 : 50

▼企画概要

2020年度より大学入学共通テストに導入され、ますます重要性を増す「英語4技能試験」。

“聞く、話す、読む、書く”はどのようにバランスよく伸ばすことができるのか？
どのような教材をどのように学べば、そして教えればできるようになるのか？
いったい何から始めればいいのか？

そんな疑問にお答えしたいと思います。

▼登壇者

第1回CMA入賞者

▼特徴

Change Maker Awards（英語4技能を用いたプレゼンテーションコンテスト）がどのように生徒の学習や進路に影響を与えるのかについてご説明します。

▼場所・時間

会議室1 15:05-15:50

▼メッセージ・リンク

出場生徒が語るChange Maker Awardsには英語学習や探究学習のヒントが多く隠されているはずです。ぜひ話を聞きにいらっしゃってください。

第2回ChangeMakerAwards

<https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>

▼企画概要

英語4技能×探究学習の全国プレゼンテーションコンテストChange Maker Awards。総合的な英語力を養い、探究力を伸ばすこの取り組みは生徒に対して学習や進路選択において影響を与えているのかについて、実際に第1回目のChange Maker Awardsの入賞生徒自らが語ります。生徒自らの語りによって、総合的な英語力や探究力を伸ばすヒントが見つかるでしょう。

同時に、Change Maker Awardsについて、そして翌日に控えた第2回Change Maker Awardsについて、見所や出場校の傾向についてご説明する予定です。

▼登壇者

関西大学商学部教授

中邑 光男 氏（なかむらみつお）

▼特徴

4技能全てのベースとなる「動的・主体的」な英文法力とは何かを，具体的な英文を通して考えます。

▼場所・時間

会議室2 15:05-15:50

▼メッセージ・リンク

教育現場で明日からでも紹介できるような具体例を通して，文法項目がどのように動的・主体的に使われているかを皆さんと味わいたいと思います。

『ジーニアス総合英語』

https://www.taishukan.co.jp/item/genius_sogo/

▼企画概要

英文法は英語学習において最も重要な分野の1つですが，学習者が英語の4技能を伸ばすためには，英文法を学ぶだけでなく，文脈の中で英文法を考える力を養うことが重要です。そのためには，英文法項目が具体的な英文の中でどのように使われているかを観察し，話者がどのような情報や意図を伝えようとしているのかを知ろうとすることが大切です。

とかく英文法は，整然と分類された項目を学習するもので，英文法学習は「静的」で「受動的」なものだと思われがちです。しかし，このように，何をどのように伝えたいかを考えた上で，適切な文法項目を選択することは，「動的」で「主体的」な行為です。さらに，このような英文法へのアプローチは，4技能を使う際に直面することになる，「文脈の中に身を置き，持てる英語力を総動員する」という感覚や力を育成するために欠かすことできません。

この発表では，発表者がこれまでかかわってきた『ジーニアス総合英語』，『英語教育』誌のQuestion Box，さらに検定教科書や小説などから，教育現場で明日からでも紹介できるような具体例を通して，文法項目がどのように動的・主体的に使われているかを皆さんと味わいたいと思います。

▼登壇者

芝中学校・高等学校
松坂 伸彦氏

▼特徴

以下、企画概要の通りです。

▼日時・場所

日時：15：05-15：50
場所：会議室3

▼メッセージ・リンク

日頃のアクティビティを、ご参加下さる皆様に実際に体験していただく予定です。よろしく願いいたします。

▼企画概要

都内中高一貫の男子校における、中学生の教科書の暗唱とお題を与えた1分間トークについて、また、高校生の意見論述のスピーキングについてお話しします。いずれも帯活動として繰り返し行い、生徒の発信力が定着するよう図っていますが、継続的な活動に生徒が飽きぬよう、色々な工夫を施しています。本実践報告では、これらの活動の概要と、その際に生徒の心理に配慮して教員側が行っている工夫について、ご紹介したいと思います

▼登壇者

大阪市立水都国際中学校・高等学校

熊谷 優一 氏

筑波大学附属坂戸高等学校

藤原 亮治 氏

▼特徴

教科横断的(英語×保健体育)授業実践を通じて、現在の外国語教育における思考力を育成するという新たなテーマの実現を模索する。

▼場所・時間

会議室2 16:00-16:45

▼メッセージ・リンク

是非お気軽にお立ち寄り下さい。

チノメザメ ～21世紀を学ぶ君へ～ | presented by 東京ナレッジキャラバン

<https://knowledge-caravan.com/>

※熊谷先生が発信しているブログ

▼企画概要

目標言語のスキルや知識のみを鍛えても実践には結びつかない。思考力育成を視野に入れた、インストラクションデザインが必要である。

国際バカロレア DP (ディプロマ・プログラム) における、全世界共通科目「TOK(知の理論)」の採点官も務める、大阪市立水都国際中学校・高等学校の国際バカロレアコーディネーター 熊谷優一先生と、「TOK(知の理論)」のアプローチを保健体育の授業に取り入れている筑波大学附属坂戸高等学校の藤原亮治先生がワークショップを行う。

▼登壇者

ココネ言語教育研究所、前獨協大学教授

阿部 一氏

ココネ言語教育研究所、慶應義塾大学名誉教授

田中 茂範氏

▼特徴

ワークショップ

▼場所・時間

メディアホール 16:00-16:45

▼メッセージ・リンク

「英語は教科書、問題集の中にある」から「英語はコミュニケーション活動の中にある」にシフトしましょう！

<https://www.cifle.jp/>

▼企画概要

発信型の英語、speaking task handling において、voice trainingが非常に重要な役割を果たします。音声表現力を鍛えるためには、口作り、口慣らしが肝要であると我々は考えています。

しかし、そのhow toに重きを置いた授業実践という形はあまり指導をされていません。そこで、本講座では”VOICE”に焦点を当てて総合的に発信型英語をどのように学び・指導するのかを取り上げると同時に、まとまった内容のことを話すためのメソッドとして Navigator in Speaking (NIS)を紹介します。

▼登壇者

NPO法人very50
菅谷 亮介氏

▼特徴

英語にとどまらないコミュニケーション力の養い方について、実体験をもとにお話します。

▼時間・場所

16 : 00-16 : 45 会議室1

▼メッセージ・リンク

<http://very50.com/>

▼企画概要

「グローバル社会で求められるコミュニケーション力」というと、英語が堪能なことが必須条件となると考えられがちです。もちろん、ある程度の英語力は必要ですが、英語ができるからコミュニケーション力があるかという点必ずしもそうとは言えません。むしろ、グローバル社会における共通言語は英語ではなく論理的思考なのです。

私自身、学生時代に世界中を回り、その後香港のマッキンゼーに就職。今はNPO法人very50を立ち上げ、アジアにおけるSDGsの課題解決のため、各国を飛び回っている中で、そのことを痛感しています。

このセッションでは、その具体的な訓練方法について、私自身の経験も振り返りながらシェアさせていただきます。

具体的には、まず世界の英語教育に対する国家戦略（ドイツ、マレーシア、香港の事例）を見ながら、日本への示唆を考えます。ドイツや香港など、なぜノンネイティブの国で英語は伸びたのか？その一つは、「世界視点に育てて"英語がトコトン必要な道具"だと認識をさせる」ということです。そのことを中心に、グローバルコミュニケーションの要諦とあるべき英語教育の姿について、皆様と考えていきたいと思いません。

▼登壇者

株式会社桐原書店
馬場 政義氏

株式会社EnglishCentral
松村 弘典氏 (予定)

▼特徴

学生のSpeaking力・Writing力を短時間で客観的に評価し、指導に活かしていただくための方法について。

▼場所・時間

会議室4+5 15:05-15:50

▼メッセージ・リンク

桐原書店とEnglishCentralが共同開発したSpeakingテスト、Writingテストをご紹介します。

www.kirihara.co.jp

▼企画概要

日々グローバル化が進む日本において、これからの社会を担う学生が外国語の4技能を学び身に付けていく事の重要性はますます高まっています。これからの学生に求められる技能に基づき、大学入試の英語試験では、従来のReading、Listeningに加えてWriting、Speakingのテストを取り入れるため、民間の英語4技能試験を活用する事となりました。また、公立高校の入試にWritingやSpeakingを導入する自治体も増加傾向にあり、学校では、これまで以上に4技能をバランスよく指導する必要に迫られています。

しかし、学校現場を見渡してみると、WritingやSpeakingの指導に中々時間が割けなかったり、WritingやSpeakingの客観的評価を行う事のできる人材が不足しているといった実態が多く为学校で見受けられます。そこで、学生のSpeaking力、Writing力を短時間のテストで客観的に評価し、受験後の生徒指導に活かしていただく事を目的とした「桐原Speakingテスト」および「桐原Writingテスト」を、動画視聴を取り入れたオンライン学習で定評のあるEnglishCentral社と桐原書店とで協同開発しました。

本テストはスマートフォンやタブレットで受験する事が可能であり、学生用レポートを実施2日後にフィードバックし教師が学生の受験結果をWeb上で確認する事ができるなど、学生や教師にとって極めて利便性の高いテストとなっています。

発表当日は、本テストの特長を生徒用レポートや教師用管理ツールを交えてご紹介します。

▼登壇者

クラーク記念国際高等学校
田中 大樹氏

クラーク記念国際高等学校
Peter O'Connor

(株) NTTドコモ
井上綾子

▼特徴

English 4skillsを活用した英語教育カリキュラムのご紹介とタブレットを使った体験ワークショップ

▼場所・時間

会議室3 16:00-16:45

▼メッセージ・リンク

4技能の高める英語教育や生徒の英語力に合わせた学習の個別化・多様化に興味がある英語科の先生方！オンライン英語学習教材の導入を検討をされている学校の先生方、ぜひお越しください！

公式HP : <https://www.clark.ed.jp/>

公式Twitter : https://twitter.com/Clark1992_PR

公式YouTubeチャンネル :

https://www.youtube.com/channel/UCW4XTO5G_cNHJ2Z0o2IPpLA

English 4 skills : <https://e4skills.com/>

▼企画概要

クラーク記念国際高等学校では、全国に広がる複数のキャンパスで「インターナショナルコース」を展開しています。初心者からTOEIC900点を超えるハイレベルな生徒まで、幅広い生徒層の英語力（4技能）を効率良く高めるために、(株)NTTドコモが提供する英語4技能学習サービスEnglish 4skillsを活用しています。

週14コマ以上の英語学習を取り入れた「インターナショナルコース」、オンライン学習を軸にした「NET+（プラス）コース」、それぞれでの授業カリキュラムと連動した、English 4skillsの活用方法や工夫などを公開いたします。

また、English 4skillsをタブレットで触っていただく体験ワークショップも行いますので、具体的な授業活用イメージを持っていただけます。

<企画概要>

1. クラーク記念国際高等学校独自の教育カリキュラムのご紹介（英語及び日本語）
 - ・ Curriculum introduction of Clark International Course
 - ・ NET+（プラス）コース（2019年4月開講）のご紹介
2. English 4 skills の活用方法のご紹介
 - ・ 授業カリキュラムと家庭学習の連動による4技能向上
3. English 4 skills の体験ワークショップ
 - ・ ワークショップ参加者用のタブレットは約40台ご用意しております。

▼登壇者

プロダクト営業部

赤堀 弘和氏

プロダクト営業部

高杉 聡美氏

プロダクト営業部

富樫 勇介氏

▼特徴

英語の授業で使える学習アプリをご紹介します。

▼場所・時間

会議室4+5 16:00-16:45

▼メッセージ・リンク

会場では弊社システムのデモンストレーションも予定しております。ICTを活用した、効率的な英語学習や指導にご興味のある方は是非ご参加ください！

<https://www.chieru.co.jp/>

▼企画概要

新しく英語4技能評価が導入される大学入学共通テスト対策として、以下のようなことを課題に思ったり、難しいと感じたりしていらっしゃるでしょうか。

- ・英検やTOEICなど、外部試験合格のための指導に偏ってしまう
- ・「話す」「書く」といったアウトプット型の技能は、評価するのが大変
- ・授業だけでは、英語4技能を強化するには全く時間が足りない

スマホやクラウドサービスの普及により、生徒を取り巻く学習環境は大きく変化しています。「学習アプリ」で検索すれば、多くのサービスが存在していることが分かりますし、実際高校生の約9割がスマホ学習経験あり、といった調査結果もあるようです。

本セッションではICT教育の視点から4技能学習を捉え、授業や宿題等としても「使える」アプリをご紹介します。